

えん罪・仙台北陵クリニック事件 千葉刑務所 守大助さん面会記



7月29日（月）

国民救援会千葉県本部の戸賀輝彦事務局次長の案内で、守大助さんに会って来ました。

当日は36℃の暑い日でした。「部屋はクーラー無くて大変だね」と聞いたら「アイスノンをもらっている」との返事で、「大変だな」と思いました。「仲間と楽天や高校野球などの話をしている。地元の情報が気になる。仙台でしか売っていない雑誌を読みたい」と話していました。

『救援新聞みやぎ版』への要望は、「事件や弁護団の紹介も載せて欲しい。一ヶ月前に教えてもらえば、メッセージ送ります」と語っていました。手紙は全国から届き、「日常のちょっとした『一言』が嬉しい」と言っていました。

私は初めて面会して、大助さんを頼もしく感じました。大助さんを一日も早く両親のもとへ帰すために、力を合わせていきます。

国民救援会宮城県本部 菅原秀俊



えん罪・仙台北陵クリニック事件とは

守大助さん(当時29歳)が当時勤務していた医療法人北陵クリニックに於いて患者5人の点滴に筋弛緩剤を混入したとして2001年に逮捕。仙台地裁・高裁・最高裁で「無期懲役」が2008年2月に確定。同年7月から千葉刑務所に服役中。大助さんには動機がなく、患者の容体急変は筋弛緩剤の薬理効果と矛盾しており、科学鑑定でも否定されている。試料は鑑定時に全量消費・廃棄され、再鑑定ができない。

2012年2月10日仙台地裁に再審申立をし、2014年3月25日に再審棄却される。仙台高裁に即時抗告を行うが2018年2月28日棄却される。3月5日最高裁に特別抗告を行う。

8月21日（水）神奈川の会

この日は東京の女性、S子さんと面会に行く予定でした。が朝に「体調が思わしくない」と連絡があり、私一人で面会をしました。

面会室に入ると、いつも爽やかな笑顔の大助さんが入ってきた。まずS子さんが来られなくなったことからお話をしました。彼女は初めての面会であり、双方ともに残念であったと思います。

しかし、大助さんは「まずは無理をしないでください」と言って彼女の健康を大変心配していました。そして心からの支援に感謝している。

大助さんの方の体調はどうですか「この暑さで夜は眠れるの？食欲はどう？」と聞きました。仕事で疲れているので、ぐっすり眠れます。

大助さんは「両親の健康のことが心配。一日も早くここを出たい」という言葉に「申し訳ない、頑張らなければ」という思いで刑務所を後にしました。

添田美智子

激励先〒264-8585 千葉市若葉区貝塚町192 守大助さん宛 2019年 133号

● 9月は中旬にメール等でお知らせします。救援会神奈川県本部に問合せ。

□面会申込み/□ 国民救援会神奈川県本部 Tel050-3310-1368 fax045-663-7953。

E mail-kyuenkai-k1@clock.ocn.ne.jp 発行/国民救援会千葉県本部 Tel043-239-7730 fax043-239-7740

面会感想にご協力をください。千葉県本部へ E-mail kyuen-chiba@kc4.so-net.ne.jp

7月25日 徳島の会佐藤 典子（福島在住）

大助さんとは3回目の面会。前回からは8年近く経過しました。

13時の約束だったが教育的処遇日とかで30分以上待った。刑務官の影が扉に写り丸8年ぶりの大助さんが現れた。お久しぶり！の明るい笑顔。髪は短くスポーツ刈り、日に焼けたからなのか、顔色は青白くはなかった。仕事の話に自然となる。

2月から調理から下処理へ戻り1000人分の食材の洗浄、カットなどに従事。今は慣れて楽しく仕事ができているの言葉に一安心。人が足りない調理班から声がかかり「また手伝って」と言われると嬉しいとも。

塀の中で一目置かれた存在になっているようです。冤罪映画「ショーシャンクの空の下で」がふっと私の頭をかすめた。改悛したかどうかをチェックする面談は他の人よりも大助さんの時間はかなり短い。罪を認めずえん罪と闘っているのを知っているので「再審どうですか、体壊さないで頑張ってください」などと面談職員は声をかけていくという。

大助さんの声が一段と大きくなったのは高裁の棄却判決文だ。裁判官になった娘さんにも胸の張れる判決を書いてほしい、公正な裁判を自分は一度も受けていない、裁判官によって裁判の公平さに差があるのはおかしい！と怒りをもって話された。

そして大助さんが心配なのはやはり病気を抱えているご両親の事、無事に帰ったかなど、手紙が来るまで心配だと表情を曇らせた。

ご両親との生活を1日も早く実現させたい、と改めて思った。アクリルの壁を隔ててではあるけれど生身の闘う大助さんに会う事は誰もが言うように新たな闘うエネルギーをもらうことになる。まだ面会していない方は手紙を出して是非会ってきてください。

8月19日(月) ご両親

お盆明けでしたので混んでるのかなと思っていたら普段と変わらず。刑務官も夏休みなのか30分位待たされ、今回は7回目なので刑務官の立会があった。ベテランの年記者で言葉は発していないが家族にまでなんで立ち合いが必要なのかと義務的に立ち会っている態度でした。

お互いの安否確認、面会者の確認、一番知りたいのは自分に近い人たちの動向確認やらで面会時間がたちまち過ぎ、最高裁要請や集会の様子などは事前に全国の支援者から手紙で知らされたようでした。宮城の救援会の事務局長の菅原さんが面会に来てくれ宮城の生の声が聞かれたことや自分が依頼してくれたことを宮城版に掲載してくれたことを大変喜んでおりました。夫が体調不良のため通院していることを伝えると看護師の顔に変わり問診してアドバイスや静岡で開催される全国母親大会に参加する私の身体に気遣うなど、こんな息子がなにゆえに18年も拘束されなければならないのか目を潤ませながら面会室を出た。



井戸弁護士さんから湖東病院事件の再審開始を学ぶ



第8回北陵クリニック事件関東連絡会の懇親交流会
9都県63名が参加し、交流会は深夜まで続きました。



田戸さん（救援会神奈川会長）から証拠